

マキノ病院ニュース

第 135 号

— 令和 7 年 1 月 1 日 発行 —

新年のご挨拶および当院の
高齢者医療への取り組みについて

理事長 森田 豊

新年あけましておめでとうございませう。本年が皆様にとつて幸多き年でありませうとお祈り申し上げます。

さて、今年は私が当院で迎える 30 回目の新年となります。その間のマキノ病院の変遷、特に高齢者医療への取り組みについてお話ししたいと思います。

私が着任した 1995 年当時のマキノ病院は、病床数 72 床の一般病院で、肺炎や脳卒中、胃癌や大腸癌の手術等の急性期医療も積極的に行う一方、入院治療の必要がなくなつても介護等の問題で退院できず、長期入院されているいわゆる「社会的入院」の患者さんもおられ、病院が介護施設の役割も担っている面もありました。

2000 年に介護保険制度が始まり、訪問介護、デイサービス等の在宅介護、特養、老健等の施設介護が徐々に整備され、病院が医療に専念できる方向へと進んでいきます。同時に、病院も効率よく高齢化社会に対応すべく機能分化が求められる様になりました。

例えば、肺炎で入院された場合、若い方は治りも早く短期間で退院できますが、高齢者は体力や免疫力の衰えもあり、治療に時間がかかります。また、糖尿病や、心疾患、認知症など既存の疾患が悪化することも多く、治療が必要になります。さらに、入院による安静が原因で筋力や歩行能力が低下し、リハビリが必要とな

ることもあります。これらが重なり退院できなくなるということも珍しくありません。また、退院できても、訪問診療・訪問看護等の在宅医療なしには退院後の生活が維持できない方も多くおられます。

当院ではこのような高齢者医療にきめ細かく対応するため、病床の機能分化と在宅医療の充実を図ってきました。入院面では、長期の入院が必要な人に向けて、2001 年に入院期間を定めず治療に専念できる療養病棟を新設し、急性期病床 60 床、療養病床 60 床計 120 床の病院としております。また、急性期病棟では 21 日をめどに治療を行うことが求められていますが、多くの高齢者にとつてこの期間は十分とは言えません。そこで、2016 年より急性期病床を急性期医療が終了後も最大 60 日まで

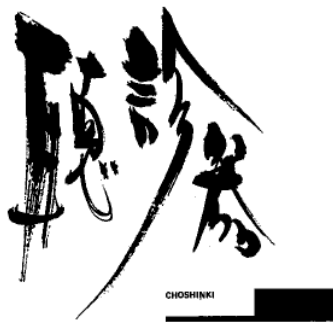
入院を継続できる地域包括ケア病床に転換し、現在は急性期病床 32 床、地域包括ケア病床 28 床で運営しています。また、退院後も在宅医療が必要な患者さんには、早くから訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーションを提供してきました。さらに、通所サービスとして 2015 年には小規模多機能型居宅事業所「はびねすマキノ」を、2020 年にはリハビリ中心の「デイケアマキノ」を立ち上げ、住み慣れたご自宅で一日でも長く過ごしていただけるよう支援しております。

今後も医療、介護、福祉の関係者と連携し、皆様に安心していただける地域づくりに貢献して行きたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いたします。

診療科のご案内
内科・外科・小児科・整形外科・皮膚科・神経内科・総合診療科
肛門外科・泌尿器科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科
【救急指定・労災指定】【人間ドック・各種健診】

— 診療受付時間 —
平日 8:30 ~ 12:00 16:40 ~ 19:00 土曜日 8:30 ~ 12:00
滋賀県高島市マキノ町新保 1097 TEL 0740-27-0099
ホームページ <http://www.makino-hosp.or.jp>

ドクターコーナー



はカンピロバクター、サルモネラ、病原性大腸菌などが挙げられます。いわゆる食中毒は細菌やウイルスに汚染された食べ物を口にする事で起こる感染性胃腸炎です。

特に子どもの場合は、場所とタイミングを選ばず嘔吐するため、保護者も大変です。「嘔吐の際には脱水に注意が必要で、経口補水液などこまめに与えるように」とよく言われると思いますが、吐き始めてすぐだと何をしても吐く状態です。

子どもの感染性胃腸炎について

小児科 河原 敦

冬はノロウイルスを中心とした感染性胃腸炎の流行しやすい季節です。感染性胃腸炎はウイルスや細菌などの微生物が原因で発症する胃腸炎の総称で、主な症状は嘔吐、腹痛、下痢、発熱です。原因となるウイルスはノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス、サポウイルスなどが知られ、細菌で

タオルやコップ、あるいは触った物に接触した手を介しての感染が考えられます。多くは突然の嘔吐が始まります。しばらく嘔吐が中心の時間が続き、嘔吐が落ち着くタイミングで下痢と発熱が続くやすいのも特徴です。

無理に何かを飲ませようとせず、あわてず様子を見て、もう吐かないかな？というタイミングから吐かない確認の意味で少量ずつ飲ませ始めても大丈夫です。軽度の脱水であれば吐かなくなつてからゆつくり経口での摂取で十分です。なお、子ども

の「のどが渴いた」「おなかいっぱい」はもう吐かないサインではないので慎重に与えるほうが無難です。油断すると、せつかく口にしてしまったものをまた全部吐いてしまうことはよくありますね。

し赤い、少し血が付く程度なら様子見も可）
⑥ 高熱を伴いぐったりしている場合
などが考えられます。

① 何か口にしてもすぐに吐くを繰り返す、何も口にしないくても吐き続ける場合
② 嘔吐はないが、大量の下痢を頻回に認め、活気がない、顔色不良が続く場合

夜間に嘔吐が始まることによくあるため難しいですが、時間外受診が必要なのか、朝まで経過を観察するべきなのかの参考にはなると思います。

③ 一旦落ち着いたらはずの嘔吐を再度繰り返すようになった場合（嘔吐が止まつてからも何も食べられない時間が続くとなりやすいです）
④ 腹痛が強すぎる場合
⑤ 明らかに下血を伴う場合（少

汚染物の消毒、食材の十分な加熱などできることは限られますが、これからの感染シーズン本番であることには変わりありませんので、十分注意してもらえたらと思います。